

## 譲渡対象物品一覧

No.	品名	概要	寸法等 (単位: c m) 【Wは奥行き】	備考
	マニピュレーター飛行実証試験の装置 MFD (Manipulator Flight Demonstration) (フライト品)			
1		日本実験棟「きぼう」の打上げに先立ち、JEMのマニピュレーターの子アームと同等のロボットアームを宇宙環境にて試験し、ロボットアームの機能・性能の実証及び技術データを取得。1997年8月7日に打上げられ8月19日に帰還したスペースシャトルディスカバリー号(STS-85)を利用して実施された。本ミッションに日本人宇宙飛行士は搭乗しておらず、NASA宇宙飛行士が対応を行った。	435(L)x130(W)x200(H) 重量: 約800kg	株式会社東芝様が開発 現在動作できない物品です。
	補給部曝露区PFMシステム (フライト品) (船外バレット)			
2		日本実験棟「きぼう」の船外バレットは、船外実験装置を搭載した状態で、2009年7月のスペースシャトル21/A (STS-127) ミッションに搭載されて国際宇宙ステーション (ISS) に運ばれ、搭載していた船外実験装置を船外実験プラットフォームに取付けた後、同じスペースシャトルで地球に戻された。	約 (490(L)x410(W)x220(H)) 重量: 約 1 t	株式会社IHIエアロスペース様が開発 現在動作できない物品です。  地球帰還後、一部機器 (再利用できたPIU(Payload Interface Unit(装置交換機構)やハンドレール等) が取り外された状態になっています。(左の写真は宇宙博 (2014年) で展示された写真)  現在、下記コンテナの中に収納された状態です。船外バレットをコンテナから取り出して搬出するか、船外バレットが入ったコンテナごと輸送して頂くことになります。
	補給部曝露区輸送コンテナ (フライト品ではなく、フライト品の輸送に使用)			
3		輸送用のコンテナ	約 (700(L)x400(W)x600(H))	株式会社IHIエアロスペース様が製作

No.	品名	概要	寸法等 (単位: cm) 【Wは奥行き】	備考
<b>宇宙飛行士関連装置</b>				
4	特殊医学検査装置 水平回転負荷装置	椅子を水平方向に回転させて、頭を前後左右にランダムに傾けることにより前庭系に刺激を与え宇宙酔いを誘発する装置。	170(L)150(W)x240(H) 重量: 約200kg (本体) 約45kg (制御盤)	川崎重工工業株式会社が開発 現在動作できない物品です。
5	特殊医学検査装置 傾斜回転負荷装置	振り子のように傾けて、耳石にかかる重力の方向を変える装置。No.4と同じように前庭系に刺激を与える。	190(L)x180(W)x270(H) 重量: 843kg (コントローラ、運動制御用PC含む) ⇒約1t	川崎重工工業株式会社が開発 現在動作できない物品です。 安定性確保のため、床にボルト固定が必要。
6	回転椅子・視性眼振刺激装置コントローラ	NA		装置は動作できないため、装置駆動に供していません。
7	特殊医学検査装置 下半身陰圧 (負荷) 装置	下半身を陰圧にして血液を頭から足の方へ移動させる装置。宇宙での体液の流れに関する負荷装置。	230(L)x125(W)x125(H) 重量: 約400kg	川崎重工工業株式会社が開発 現在動作できない物品です。 安定性確保のため、床にボルト固定が必要。
8	運動制御パーソナルコンピュータ	NA		装置は動作できないため、装置駆動に供していません。
9	特殊医学検査装置 直進加速度負荷装置	椅子を前後に移動させて、No.4、No.5と同じように前庭系に刺激を与える。	290(L)x60(W)x170(H) 重量: 約350kg	川崎重工工業株式会社が開発 現在動作できない物品です。
10	特殊医学検査装置 眼球運動刺激装置 (半球ドーム)	半球のスクリーンにランダムドットや縦横のストライプを横方向に回転させ、視覚に回転刺激を与える装置。	125(L)x100(W)x220(H)	川崎重工工業株式会社が開発 現在動作できない物品です。

#### 宇宙実験装置 (フライト品)

No.	品名	概要	寸法等 (単位: cm)	備考
11	温度勾配型電気炉 (GHF: Gradient Heating Furnace)	1992年7月に、日本の宇宙実験をスペースシャトルにおいて自ら行った「ふわと'92」第1次材料実験 (FMPT: First Material Processing Test) で使用された。毛利宇宙飛行士が搭乗。高温部と低温部があり試料の一方凝固ができる温度勾配型電気炉。	約 (60(L)x80(W)x50(H))	株式会社IHI様が開発 現在動作できない物品です。
12	電気泳動装置 (FFEU: Free Flow Electrophoresis)	1994年7月に、スペースシャトルでのミッションである第2次国際微小重力実験室 (IML-2: Second International Microgravity Laboratory) に搭載された。本ミッションには向井千秋宇宙飛行士が搭乗。電気泳動装置は生体物質の分離を行う装置。	約(46(L)x80(W)x70(H))	三菱重工工業株式会社が開発 現在動作できない物品です。